

地球のステージに寄せられた感想文

アフリカやアジアの貧しい国の人たちの映像やトークは、TVなどでやっている人助けとか、そんな感じのだけかなあ、とっていたけど、面白い話も交えて話していたし、可哀想だと思ったりハッキリ言って行きたくなかった、ということや普通だったら言わないこともいっていてとても共感できました！

ゴミ山に住んでいても、飢えていても明るく元気に笑っている子ども達を見て、私がもしあんな環境だったら、あんな風に笑ってられないだろうなあ、と思いました。でも、この豊かな日本でも、あんなに元気で明るく笑っている6年生はいるのかなあ、と考えさせられました。

ボランティアも、人助けなんて、とか思っていたけど、自分のために、とってする考え方もあって、納得しました。

(小学校6年生、女子)

私たちが手を貸すことで多くの命などが救われるかもしれないが、私たちが手を貸さなくても《人は、希望さえあれば生きてゆける》ということを知りました。

メディアではあまり報道されない人々の笑顔を守るために人として当たり前のやさしさを与えることさえがほんとうのプレゼントなのではないのでしょうか。

この考え方は、また私自身の一方的な考えであるとは思いますが、今日の桑山さんのお話を聞き、改めて考え直すことができました。

より多くの人々の命を本当の意味で守るためには、大人も子どもも学校という名の場所で我慢強さや、平和のすばらしさを学ぶことから始まるのではないのでしょうか。

(中学生、女子)

地球のステージを見て、自分に何かできることがあるはずだと思い、募金活動や、エコキャップ運動を行っています。少しでも貧しい国や紛争がたえない国の手助けになったら良いと思っています。また、桑山さんには、たくさんの人々に勇気や元気を与える力があります。自分もその一人です。

(中学校3年生、男子)

最初のアメージング・グレースの曲が始まったとき、どんなステージなのだろうと全く見当が付きませんでした。でも、途中から、涙を誘われることがありましたがこれは、全て「事実」なんだなあと思うと自然と「地球のステージ」に見入ってしまいました。

自分は、正直黒人の方に対して偏見が少しあったのですが、その抵抗も薄れて「黒人と白人の違いってなんだ？」などと、思うようになりました。

また、「本当のボランティアってなんなんだ？」「自分は、他の国の人を可哀そうと思うことで自分を勇気付けている汚い人間なのではないか？」ということも考えさせてもらえました。

活動は、とても大変だと思います。でも被災地の方だけではなくステージを見ている人の心も救っているのだと思います。

(中学生、男子)

桑山さんのお話を聞いて、私たち日本人はとても裕福な暮らしをしていることに気づきました。

私たちは、朝、昼、晩と、一日に三食食べるのが当たり前です。

それなのに他の国の同じ歳の子供たちは一日に何も食べられないかもしれないし、さらに私たちよりもとても大変な仕事があるということでした。しかも毎日毎日死ぬかもしれないという危機があります。

それは、私にはとても耐えられないと思います。「とても辛くて死んだ方がマシだ」と、思っていたかもしれません。ですが、その国の子たちはそれにも耐えて毎日を精一杯生きているんだと思います。

なので、私もこれからは一日一日を大切に、そして私よりも幼くして死んでしまった子たちのためにも精一杯生きていこうと思うことが出来ました。

(中学校1年生、女子)

